

進路決定に向けて

第3学年主任 渡邊 豊

(保護者の皆様へ)

1 はじめに

通常の高校生活が送れていても受験について、不安や焦りから心が不安定になることが多々ある3年生にとって、新型コロナウイルスのため休校期間が長引くことで、さらに、進路に対して不安や悩みが重なることと思います。これまで以上にご家庭のお力添えが必要になります。休校中は起床や学習開始、就寝の時間を固定して、規則正しい生活をおくれるよう、ご協力をお願いいたします。ご家族の応援が一番力になったと卒業生が言っています。何か心配なことがあれば学校にご連絡ください。1年間よろしく申し上げます。

2 指導方針

合否結果だけでなく、それに至るまでのプロセスをとおして、『粘り強い心』、『自己を分析する力』など生徒の人間力向上を目指す。

学習指導

- (1) 夏までは、焦らず、しっかりとした基礎学力を固めさせる。
 - ・生徒本人に自己評価(試験の振り返り、学習時間の記録)させる指導を行う。
- (2) 夏季休業からは、基礎力を生かして演習に取り組みさせていく。
 - ・夏季課外をペースメーカーにして、教科バランスを考えた学習の計画・実行ができるよう指導する。
 - ・科目を安易に減らさせないこと、模試を最後までしっかり受験させることで、つらくても逃げない粘りを育てる。
- (3) センター試験後は、最後(国公立大後期試験、私大3月入試など)まで諦めさせない。
 - ・特に国公立大学志望者は、視野を広げて考えさせる。

3 進路希望の実現へ向けて

※現時点での予定でまとめました。今後新型コロナウイルス感染症の状況により、変更になることがあります。今後の動向を注視してください。

■ 大学の情報をどのようにして手に入れるか? ■

(1) 「大学案内」の入手

多くの大学では、7月頃までに「大学案内」および「入学者選抜要項」が発行されます。(無料と有料の場合があります。)
「大学案内」には、学部や学科の特徴、講義内容、キャンパスの特色や就職状況等の情報が載っております。また、9月以降「学生募集要項」、「学校推薦型選抜募集要項」、「一般入試募集要項」が順次発行される大学が多いようです。

募集要項等の入手は、以下のような方法があります。

ア. 各大学のホームページから直接請求する。	…資料請求ページにアクセスしてテレメールで申し込む。
イ. テレメール(web)で申し込む。	…インターネット(パソコン・携帯電話)(http://telemail.jp)にアクセスして請求できる。
ウ. テレメール(電話)で申し込む。	…自動音声応答電話(IP電話)(番号は大学のホームページ等で確認)で、資料請求番号の入力をする。

エ. 郵便局で請求する。	…郵便局の「国公立大学・短期大学及び通信教育課程, 大学 校募集要項(願書)請求申込書」に必要事項を記入の上, 送 料と払込手数料を添えて申し込む。
オ. 郵送により請求する	…大学によって入手方法が異なる(返信用の封筒や切手代など) ので, 各大学のホームページなどで確認して下さい。
カ. 大学の窓口で直接受け取る。(私立大学では, 有料の大学もあります。)	
キ. 書店で購入する(私立大のみ, 大学によっては置いてない場合もあります)。	

◎ 各大学の願書は全て個人で入手していただきます。国公立大学の場合, 共通テストの自己採点結果によっては, 急遽出願大学を変更する場合も想定されます。入手方法はすぐ確認できるようにしておいて下さい。受験する可能性が少しでもあるならば, 早めに取り寄せておいた方が無難と言えます。

- (2) 各大学ホームページの閲覧
(3) 体験入学やオープンキャンパスへの参加

■ 大学入学共通テスト ■

校内共通テスト出願説明会(9月3日予定:生徒対象)において「受験案内(志願票・振込用紙等を含む)」を配付します。願書は 10 月上旬に学校から一括して発送しますが, それまでに検定料等の払い込みを各自で済ませていただきます。どの教科を受験するかは, 10 月の出願段階で申請しなければなりませんので, 注意が必要です。

(1) 共通テスト教科・科目・出題方法

	出題教科・科目	試験時間
地理歴史 公民	「世界史 A」「世界史 B」 「日本史 A」「日本史 B」 「地理 A」「地理 B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」『倫理, 政治・経済』	マーク式 1 科目選択 60 分(100 点) 2 科目選択 130 分 (うち解答時間 120 分) (200 点)
国語	『国語』	マーク式 80 分(200 点)
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	『英語』マーク式 【リーディング】 80 分(100 点) 【リスニング】 60 分(うち解答時間 30 分) (100 点)
理科①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	【理科①】マーク式 2 科目選択 60 分(100 点)
数学①	「数学 I」『数学 I・数学 A』	マーク式 70 分 (100 点)
数学②	「数学 II」『数学 II・数学 B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	マーク式 60 分(100 点)
理科②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	【理科②】マーク式 1 科目選択 60 分(100 点) 2 科目選択 130 分 (うち解答時間 120 分) (200 点)

(注 1) 地理歴史及び公民並びに理科のグループ②の試験時間において 2 科目を選択する場合は、解答順に第 1 解答科目及び第 2 解答科目に区分し各 60 分間で解答を行うが、第 1 解答科目及び第 2 解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は 130 分とする。

(注 2) リスニングは、音声問題を用い 30 分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付した IC プレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は 60 分とする。

(注 3) 理科のグループ①については、2 科目を受験するものとし、1 科目のみの受験は認めない。

(2) 共通テスト受験上の注意

ア) 地理歴史・公民の受験について

- ・ 受験科目数を出願時に登録しなければなりません。
- ・ 同一名称を含む科目の組合せで 2 科目を選択することはできません。

イ) 理科の受験について

- ・ 10 月の出願時に、下記の 4 パターンのいずれかを登録しなければなりません。

	出題科目	科目選択の方法等	試験時間(配点)
理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	左記出題科目の 8 科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>A 理科①から 2 科目 B 理科②から 1 科目 C 理科①から 2 科目および理科②から 1 科目 D 理科②から 2 科目</p> </div>	【理科①】 2 科目選択 60 分(100 点)
理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	なお、 <u>受験する科目の選択方法は出願時に申し出ること。</u>	【理科②】 1 科目選択 60 分(100 点) 2 科目選択 130 分(うち解答時間 120 分)(200 点)

- ・ 文系の基本形は「A 理科①から 2 科目」となります。
- ・ 理系の基本形は「D 理科②から 2 科目」となりますが、「C 理科①から 2 科目および理科②から 1 科目」も選択可能な大学も多いです。
- ・ 「C 理科①から 2 科目および理科②から 1 科目」を選択した場合、同一名称を含む科目を受験すること(例えば「生物基礎」と「生物」の受験)は可能です。ただし、これを認めていない大学も多いので注意しなければなりません。各大学が発行する「学生募集要項」等での確認が必要となります。

ウ) 地理歴史・公民、理科を 2 科目選択する場合

- ・ 途中入室または退出をして 1 科目のみを受験することはできません。
- ・ 2 科目受験したが、1 科目の得点のみを採用する大学を受験することになる場合もあります。その際、2 科目のうち高得点科目を採用せずに、第 1 解答科目の得点を合否判定に用いる大学が大半です。したがって、得意科目を第 1 解答科目として選択しておいた方が良いと言えます。

エ) リスニングの受験について

- ・ IC プレーヤーを使用しての受験となります。その際、イヤホンと耳の形状が適合せず耳に付けられない場合があります。この場合、ヘッドホンを使用しての受験が可能となりますが、ヘッドホンの使用を希望する場合は、出願時(10 月上旬)に診断書等を添えての申請手続きが必要です。

オ) その他

- ・ 丸 2 日間極度のプレッシャーに耐え、集中力を維持しなければなりません。精神面と体力面のタフネスが要求されます。

■ 一般入試 ■

(1) 国公立大学の一般入試

- ・ 個別試験(2次試験)の出願期間は、1月25日～2月3日の10日間です。
- ・ 共通テストで思うように得点が出来ず、出願希望先の変更を検討しなければならないことも想定しておかなければなりません。万一来不及に備え、第1志望校だけでなく、第2、第3の志望校を考えておくことも必要となります。その際は、受験科目を揃えておくことが得策といえます。第1志望校が課す教科・科目の範囲内で受験できる大学をいくつか調査しておかなければなりません。第1志望校の受験科目が絞られてしまっている場合は、特に注意が必要となります。
- ・ 後期日程では小論文、総合問題や面接などを課す大学も多く、受験準備の量が増えるという理由で、敬遠する受験生も多いようです。しかし、今年3月12日に行われた後期日程の欠席率は、国立大学で61.1%(前年より3.8ポイント増)、公立大学で61.8%(前年より4.9ポイント増)でした。ちなみに、茨城大学は64.5%、福島大学は66.2%です。国公立大学希望者は、後期日程までしっかり粘ることで、最後に納得のいく結果を残すことができるのではないのでしょうか。

(2) 私立大学の一般入試

定員厳格化により、これまで合格圏と考えられた学力の生徒が合格できなくなっているケースが非常に多くなっており、これまでのデータによる合否判定の精度が低くなっているということなので、受験計画を立てる際に注意が必要となります。

【方式別入試】

オーソドックスな「3教科型」を中心に、特定教科を重視した「1,2教科型」などがあります。

自分の得意科目を活かせるのが、方式別入試です。方式ごとに複数の受験日を設定し、同一大学・学部・学科内での併願可能な大学が多いです。多くの受験生は、複数回受験により合格の可能性を高めていると言えます。

利点	①自分に合った入試が選べる。 ②同一大学・学部・学科の受験チャンスが増える。 ③得意科目での勝負ができる。
注意点	①3教科型以外は募集人員が比較的少ない。 ②少数科目、特定科目重視の入試では、その科目が得意な受験生が集中する。 その結果、難易度が上がる可能性が高い。

【共通テスト利用入試】

私立大学・短大が、共通テストを利用して入試を行う制度です。8割を超える私立大学で実施されています。

①共通テストのみで合否判定をし、大学独自の試験は課さない。

②共通テスト+大学での個別試験。

などがあります。

利点	<p>①国公立大志願者はセンター対策がそのまま私大対策となるので、効率がいい。 また、3教科3科目でなく、4教科や5教科受験型を実施している大学もあり国公立大志願者が有利な場合もある。</p> <p>②受験校の選択の幅が広がる。</p> <p>③1回の受験で、複数の大学を受験することができる。</p> <p>④同一大学・学部・学科を受験するチャンスを増やせる。</p> <p>⑤受験料が一般入試より安く設定されている。</p>
注意点	<p>①センター試験に失敗してしまうと、全く利用できなくなる。</p> <p>②募集人員が比較的少ないので、一般入試に比べて高倍率になりやすい。</p> <p>③センター試験を受験する前に出願が締め切られてしまう事前出願の大学が多い。</p>

■ 学校推薦型選抜（旧推薦入試） ■

- ・ 7月10日（金）に生徒対象の推薦入試説明会を予定しています。学校推薦型選抜を考えている場合は、必ず出席させて下さい。
- ・ 学校推薦型選抜へ向けての準備には時間がかかります。希望者は、早めにHR担任と評定や欠席数などについても含めて相談して下さい。校内申し込みの際に、志望理由書も提出してもらいます。
- ・ 学校推薦型選抜で内定した場合は、必ず入学していただきます。また、原則として併願はできませんのでご注意下さい。
- ・ 内定後も生徒は、全員センター試験を受験します。合格しても一般入試へ向かっている他の生徒に配慮しかつ入学後、他の学生との学力差が無いように一般入試でも十分に合格できる学力を身に付けるよう、ご指導をお願いします。

(1) 国公立大学の学校推薦型選抜（旧推薦入試）

- ・ 一部を除き、公募制推薦のみです。
- ・ 出願は一校だけです。
- ・ ① センター試験を課す 場合と ② センター試験免除 の場合があります。
- ・ 応募条件は「全体の評定平均値が4.2以上」など、かなり高い成績基準が設定されます。また、高校ごとの志願者数を制限される場合も多いので、注意が必要です。
- ・ 推薦入試の可否判定は、①書類審査(調査書・推薦書)、②小論文・総合問題、③面接や集団討論(口頭試問を含む) の総合判定(実技が課せられる学科を受験した時にはその判定も含めて)で行われるのが一般的です。特に、小論文や総合問題、口頭試問がある場合は、その成績がかなりの比重を占めます。
- ・ 口頭試問では、各教科・科目の基礎学力、思考力、判断力、表現力において一般入試と同等の学力を問われます。早くからの準備が必要となります。

(2) 私立大学の学校推薦型選抜（旧推薦入試）の評価方法・変更点

- ・ 学力を測る試験が必須になる
以下のいずれか一つの活用が必須化され、受験者の学力が測られるようになります。
大学入学共通テスト 資格や検定試験の成績 大学独自の学力テスト 小論文
プレゼンテーション 口頭試問 実技
今までの推薦入試は、ほとんど書類審査と面接の評価だけで合格が出されていたため、定期テス

トを毎回一夜漬けしていたとしても乗り越えることができていました。しかし、これからは実力をつけていく必要があります。

- ・ 合格発表時期が遅くなる

学校推薦型選抜では、合格発表時期が「11月以降」から「12月以降」に変更されます。

現在の推薦入試では、出願月と同じ11月に合格発表を行う大学が全体の42%を占めているのですが、この早い時期に行われる合格発表が、生徒の学習意欲を下げ、高大接続に影響を与えていると問題視されているためです。

- ・ 平成30年度の調査(日本私立学校振興・共済事業団調べ)によると、私立大学の39%(私大581校のうち229校)が定員割れをしています。高校生の獲得競争をしている大学・短大・専門学校が非常に多いということを念頭に置いていただきたいと思います。
- ・ 「早く進路を決めたい」とか「一般入試は大変」といった理由で推薦入試に臨み、内定後「後悔をした」とつい口にしてしまう本校卒業生も毎年のようにおります。もし、学校推薦型選抜を利用するときは、十分納得した第1志望校のみを受験するようお願いいたします。

■ 総合型選抜(旧AO入試) ■

総合型選抜は学力試験だけでなく、面接・小論文や書類審査、自己PRなどで、受験生の個性や適性、意欲など総合的な人物評価を行う選抜方法です。学校長の推薦を必要としない場合が多く、専願の大学が大半です。**自分が本当にその大学に入学を希望しているかを見極める**必要があります。提出書類が膨大な量になることも多く、提出期限が分かりづらいこともあり、募集要項等を何度も確認しながら受験を進めなければなりません。また、AO入試は選考が長期間にわたるため、最終的に不合格になった場合に備え、推薦入試や一般入試の準備もしなければなりません。

(1) 国公立大学の総合型選抜

- ・ 倍率という観点では、推薦入試や一般入試よりもやや広き門と言えますが、専門的な学習や研究等を積んでいないと全く書くことが出来ない課題を課す傾向があります。

<例1> 筑波大学(全学類実施)一部のみ紹介

学類	自己推薦資料テーマ例
人 文	伝承の息づく場所としての郷土研究
比較文化	ラジオドラマの特性を踏まえた表現の研究
日本語・日本文化	日本語学習に役立つ「かるた」の作成
工学システム	眠気の数値化に関する研究
情報メディア創成	人を引き付ける短いメロディとは何か
知識情報・図書館	学校行事における情報メディアの利活用

(2) 私立大学・短大の総合型選抜の評価方法・変更点

- ・ 学力を測る試験が必須になる

従来のAO入試は、書類審査や面接だけでも合格することができました。しかし、総合型選抜になると、調査書等の出願書類だけでなく、以下のいずれか一つの活用が必須化されます。

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」をきちんと評価するためです。

大学入学共通テスト 資格や検定試験の成績 大学独自の学力テスト 小論文

プレゼンテーション 口頭試問など

つまり、受験者の学力が測られるようになるのです。面接や書類だけで合格を出してもらえなくなります。

- ・ 出願時期・合格発表時期が遅くなる

総合型選抜では、出願時期が現在の「8 月以降」から「9 月以降」に変更され、合格発表時期も「11 月以降」に延長されます。早い時期に合格が決定することで、学習意欲が下がったり、高校教育と大学教育との接続が円滑に行われなかったりするという AO 入試の問題点を解決するためです。さらにそれに伴い、大学の入学前教育が、特に 12 月以前に大学入学手続きをとった生徒に対してより本格的に行われるようになる予定です。

■ 入学手続きについて ■

入学時に大学に納めるお金は、入学金・授業料(通常は前期のみ)・施設設備費などで、約 100 万円～150 万円です。

合格発表後、大学が指定する期日までにこれらの金額を納入しないと、合格が取り消されます。第 1 志望の大学の合格発表が別の大学で、その合否がまだ不明の場合があります。万が一、第 1 志望校が不合格のときを考えれば、先に合格した大学にとりあえず入学金や授業料(入学時最小限納付金という)を納めておくこととなります。しかし、いったん納めた納付金は必ずしも全額返還されるわけではないので(原則授業料は返還される)、第1志望校に合格した場合、いくらかのお金が無駄になってしまいます。第1志望校の合格発表が併願校の入学手続き締め切り前なら、余計な出費は防ぐことができます。したがって、併願プランは、入学手続き期間も念頭に入れながら立てる必要があります。

※入学時最小限納付金

入学手続き時に最低限納入しなければならないお金のこと。入学金などを含み、初年度納入金より低額となっている。納入方法として、2段階方式・延納方式・返還方式・その他(2段階方式と返還方式の併用など)がある。

■ 入試・入学にかかる費用参考例 ■

例えば、
 地元国立大学 1 校
 地元私立大学 1 校
 首都圏の私立大学 3 校 } 受験 → 地元国立大学合格
 → 地元国立大学へ進学

○ 受験時

募集要項代(私立大)	1,000 円×4 校	=	4,000 円	
センター試験検定料	18,000 円×1 回	=	18,000 円	
国立大受験料	17,000 円×1 校	=	17,000 円	
私立大受験料	35,000 円×4 校	=	140,000 円	
交通費(首都圏往復)	15,000 円×3 回	=	45,000 円	
宿泊費	15,000 円×3 回	=	45,000 円	
	計		269,000 円	… ①

○ 合格発表から入学手続きまで

入学金	282,000 円×1 校	=	282,000 円	
授業料(前期)	267,900 円×1 校	=	267,900 円	
	計		549,900 円	… ②

○ 初年度後期

授業料(後期)	267,900 円×1 校	=	267,900 円	… ③
受験から入学まで(①+②)			818,900 円	
受験から初年度の合計(①+②+③)			1,086,800 円	

※ 国公立大合格発表前に私立大に入学手続きをすれば、その分入学金が発生します。通常、入学金は返還されないため併願を考える際には注意が必要です。

4 本校の進路関係行事日程

【模試日程】

	備 考
①6月進研マーク模試（6/5, 6）	校内
②7月進研記述模試（7/2, 3）	校内
③第2回全統マーク模試（8/10）	校外受験
④第2回全統記述模試（8/17）	校内
⑤9月進研マーク模試（9/11, 12）	校内
⑥10月進研記述模試（10/9, 10）	⑤, ⑨, 「本番共通テスト自己採点」とドッキング判定に使用。 私大一般入試の検討にも使用。 校内
⑦第3回全統マーク模試（10/16, 17）	校内
⑧第3回全統記述模試 （10/23, 24）	⑦, ⑩, 「本番共通テスト自己採点」とドッキング判定に使用。 私大一般入試の検討にも使用。 校内
⑨11月進研マーク模試（10/30, 31）	校内
⑩全統センタープレテスト（11/22）	校外受験

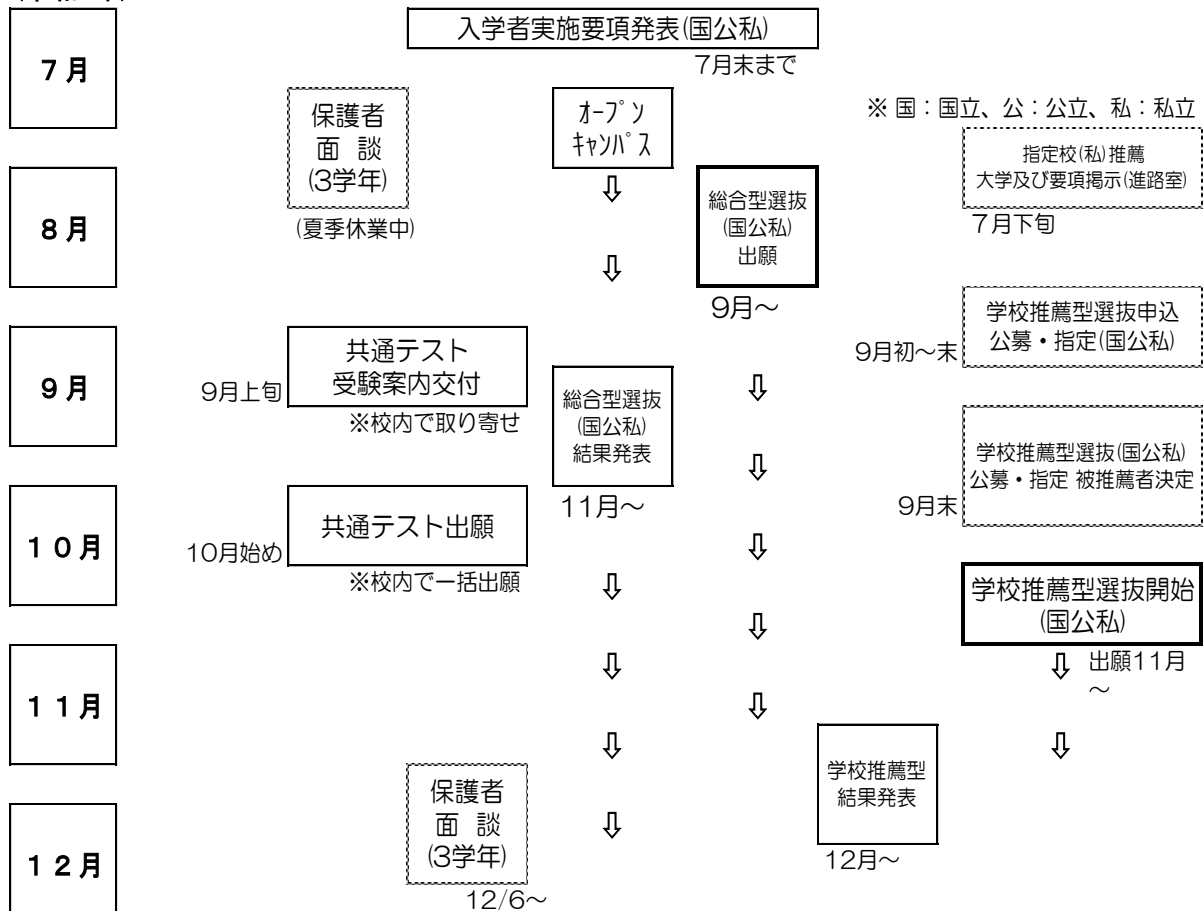
⑨までの結果で12月三者面談。上記は全員受験の模試。

5 クラス編成と学年職員

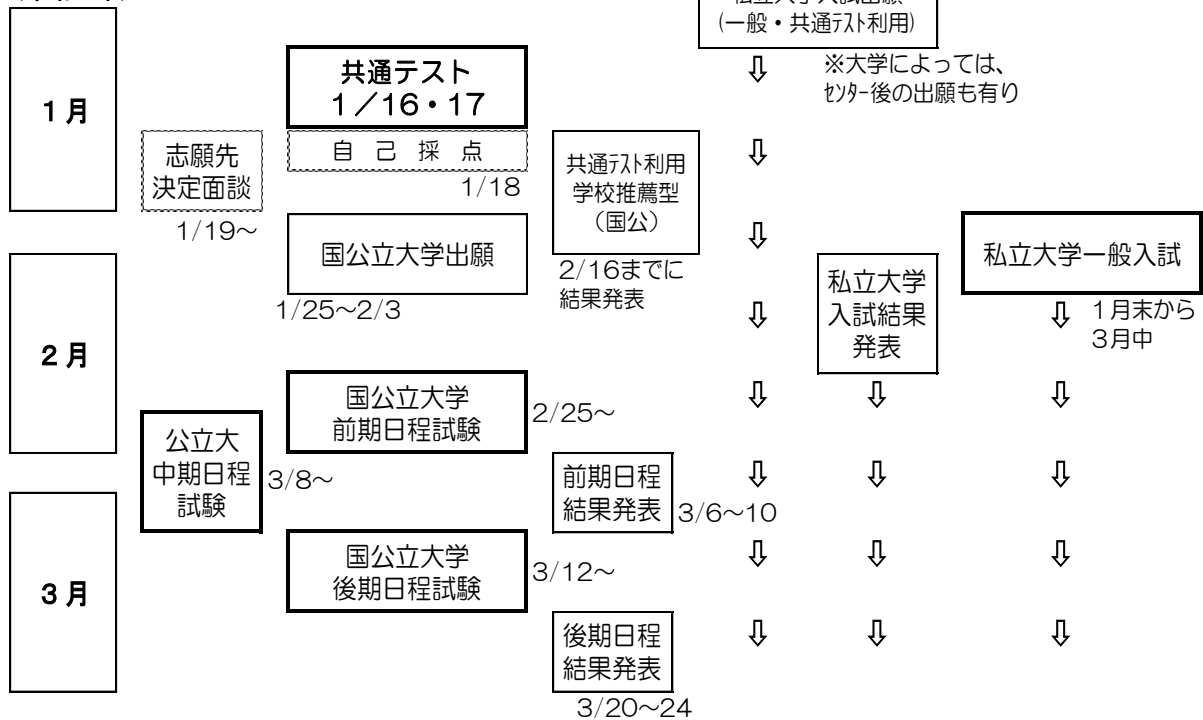
組 生徒数	担 任	
	副 担 任	
1組 41名	村 田 千 鶴	(英語)
	青 木 由 佳	(芸術)
2組 40名	本 多 早 紀	(芸術)
	菌 部 尊 礼	(英語)
3組 42名	鈴 木 啓 文	(英語)
	稲 田 敬 一	(地公)
4組 41名	岡 佑 布 子	(国語)
	堀 勝 司	(地公)
5組 41名	高 橋 綾 子	(国語)
	南 雲 和 子	(体育)
6組 42名	高 木 薫	(理科)
	山 口 壮 介	(英語)
7組 41名	綿 引 迪 雄	(数学)
	鴨志田 勲	(数学)
8組 23名	齊 藤 昌 子	(国語)
	鈴 木 秀	(理科)
311名	副主任 鴨志田 勲	(数学)
	主 任 渡 辺 豊	(数学)

令和3年度入試日程

(令和2年)



(令和3年)



※-----囲みは、校内での進路指導事項